「友松」の変遷 Ⅱ

2010.10.15 発行
シリーズ２－１
「友松」27 号

友松会が年１回発刊している「友松」は、昭和１５年を最後に、太平洋戦争が激しくなり、長い間廃刊されていた。戦後４年経ち、昭和２４年１１月、「友松」第２７号が新聞版として復刊された。下記に掲載してあるものが、復刊した「友松」２７号である。

（1）　第二七號　　友　松　會　報　　昭和24年11月3日

會誌の復刊に際して

會長　小林梅茂

☆會誌復刊の意義

母校創設が明治十一年第一回の卒業生を世に送って以来母校と表裏一体の歩みを続けたわが友松会の足跡はそのまま明治大正昭和の教育史でもある。

かつての日本と共に華やかな存在であった友松会も幾々会員の重疾さえ思ふに任せず永く続いた会誌さえ昭和十五年を最後として発行出来なくなった事も思えば悲しい事であった。

今、終戦四年にしてさやかなりとは言えこの会報に面し感激の涙いものがあると共に生きた友松会そのものの息吹きを感ずる。

☆會の現況

空襲必至と見ての会員の処分三十万近い基金を得て安心したのも束の間、封鎖、打切、インフレ等で文化の木阿弥その間主事西川先生を中心に役員各位の御努力、思えば言語に絶した会の受難期でもあった。

友松会の為に、唯友松会の為にと心をお寄せ下さる会員有志に励られて今日を迎えた。

遺憾しながら、理事会に諮案した会費の値上も二度に亘額六十円に値上して貰うし、更に理事会に諮つたら年額百円と値上の訂正をされ爾後約に則り最後に全評議員支部長会議に付議したら月額十円年額百二十円也と決定した。何と強い力よ。

この強い力に押されて会報の復刊も計画され会員名簿も本年中に印刷配布の運びとなり更に男女各教代表を依嘱して本会の運営金額に関し慎重な御審議を願う計画も握んでいる。

尚今日迄の会の概況財政等は別項の記事に依り御諒承を願はしたい。

☆母校の現状

母校三田校長と本会との協調極めて円滑であった矢先き、母校の新制大学え昇格の議あるを傳えらるるや即せずして『義務教育の教師養成機関たる師範の大学昇格』と全縣民の関心事でなければならぬ』との建前から会縣民を打つて一丸とした一大後援会の結成が計画せられたのが昨年六月、縣下各地域毎に支部分会の設置に御尽力を願い、切角奔走中、本年六月一日付母校は既に横浜國立大学学藝学部として新発足した。全縣的後援会を育成強化し以て後援の実を挙げることも重大使命の一つであろう。

☆明日の友松會

新時代にふさわしい友松会の在り方。会員中には老ありて若きあり、男あり女あり、教職にある者既に退いた者、さては縣内に居る者縣外に居る者、多数会員の顧び満足されしかも同窓たる本質的使命を離れないわが友松会の在り方、この点には握と異現と実現の為務であらう。

希くは会員各位が総意を各級代表に集中せられ各級代表会議でわが友会の誇やかしい明日えの基礎づけが出来ることを念じてやまない。

就任に際して

學藝學部長名譽會長　銅直勇

新日本建設の共礎工作が教育にあることは今更らしく申すまでもありますまい。その基礎工作としての教育改新の基本的要件が教師養成であることも言を俟たない事と思います。今次の大学新学制において各府縣の大学が必ず教師養成の学部を有することを要件として居る事は新日本の建設に大関係深き能率高きよき教師が必要であることを意味して居るのであると思います。

神奈川師範学校は創立以来七十余年の旧い歴史を有し今日まで八千有余の卒業生を教育界に送り出し縣下教育の基礎となって来た。この旧い傳統をもつ師範学校が今新しい使命を以つて新設横浜國立大学学藝学部として発足し、著しく専門的素養に富む時代に應ずる必新大学の免許法に基く軍要使命を有し母校は卒業に徴振な警

輿論と恩給……

六、三〇七圓ベースに

齊藤元近

昨年七月五日、全國恩給受給者私如き者にまで幾十人の盛り上った輿論が、遂に國会に關聯をした方々の肌状を

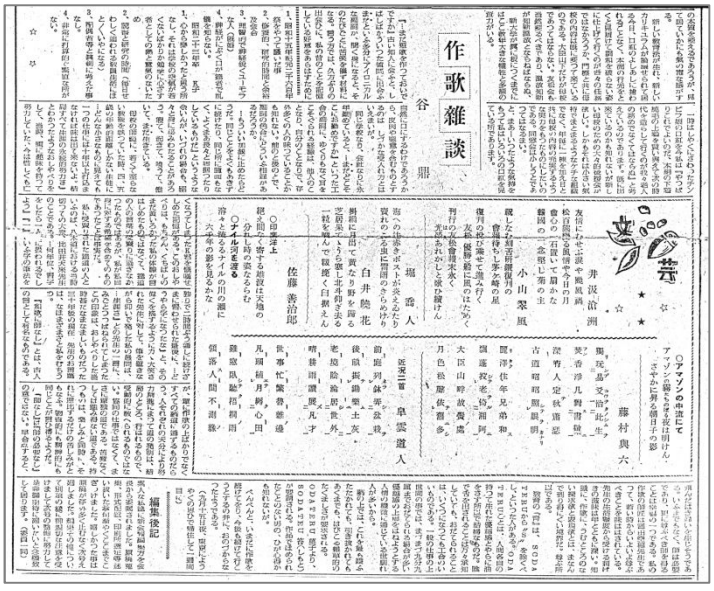
支部だより

横横支部

昭和十九年七月旬かと記憶の末期に山下縣側のだしい姿で、無蓋在住者式の会合の席上、高城、瀧谷子、水島の四長老の推薦で部長に斎藤元近、副支部長川豊吉、荒波隆三、関みさ氏を推された。御来四年余でした。何も出来ない有様来ないのが普通であった。後関氏は母子寮の関係で辞出された。為うに吉田の故仁三氏が丹念に縣年度は二には必ず中里温泉旅館で、な同窓会を開いて、氏独特法で諸事紹介せられたもの

發行所
横濱市西區紅葉丘三五
横濱市教育會館内
友松會
電話㊂0960番
振替口座横濱359番
編集發行人
吉川豊

現在、事務局に保存されているが、わら半紙に印刷されたものであるため、変色し、触ると破れるほどにボロボロになっている。内容を読んでみると、会長の「会誌の復刊に際して」の中で、復刊の意義を説いている。その他の記事をみると、恩給のこと、支部だより、会務の概要、会則、随筆等がある。



作歌雜談

谷鼎

左の「作歌雑談」谷鼎氏の記事は素晴らしい内容である。また、文芸欄の作も佳作である。

刊行の友松会報末永く
栄光あれかしと歌い続けん

その他、「祝発刊」として、参議院議員、県会議員、教育委員、市町村長等々の名前が、２３名も記されている。また、学校や書店の広告が１６件出ている。